

# 定例研修会

日時：平成21年3月1日(日)  
場所：東京ステーションコンファレンス



安部 稔降 (東京都)

3月1日東京ステーションコンファレンスにて行われた定例研修会での会員発表報告をします。

今回は4題の発表が行われました。

はじめに、小嶋榮一先生に「温故知新としてのDental Implantの進化講 30年の臨床を語る」という題目でお話いただきました。

症例は乙部朱門先生が20年前に治療され現在では小嶋先生が引き継いで治療されている患者のもので、口腔内のインプラント治療も進化発展していく過程で、技術や知識だけでなく、治療への取り組み方や患者に対する接し方を師から受け継いでいくという師資相承の考えが集約されたものでした。

また、インプラント臨床研究会発足当時の資料等が見ることができ、大変興味深く会の歴史をあらためて感じることができました。

2症例目は塩路昌吾先生で「インプラント埋入後口唇麻痺の経験」という題目です。インプラント治療における偶発症のうち下歯槽神経麻痺についてのものでした。先生の多くのインプラント経験から下歯槽神経麻痺症例を、原因、対策、経過、患者とのやり取りや心境を細かく説明いただきました。治療で起こったトラブルにどのように向き合っていくかを教わり、またCTでの画像診断の重要性を再認識させられるものでした。

3症例目は塩山秀哉先生で「インプラントを用いて咬合再構成をおこなった一例について」という題目でお話いただきました。多様なテクニックを用いて歯周組織のコントロールや骨の再生などを行い、インプラント治療によって全顎的に咬合の再構築した症例でした。知識、テクニック、治療計画とインプ



ラント経験の少ない自分にとって今後の課題をみつけることができました。

最後は、中野喜右人先生による「インプラント補綴におけるセファロ分析の活用」でした。全顎的な咬合再構築を行う症例で、セファロから顎骨や咬合の関係、歯軸の傾斜、前歯部の審美性等を分析して咬合平面を決定していくものでした。勉強不足の自分にとっては難しいものでしたが、今後一つの手段として使えるように勉強していきたいと思います。

初めて、会員発表を見せていただき会員の先生方がどのようなインプラント治療を行っているか見ることができ大変勉強になり、また刺激を受けました。

今後もこのような貴重な機会を有効に利用して日々の診療に結びつけていきたいと思いますので、会員の先生方ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。